

令和6年度 西都市立三納小中学校 「学校運営協議会評価書」		評価規準	自己評価	学校関係者評価 (学校運営協議会)	
項目	重点目標及び到達目標	具体的な取組			
基礎学力と学習意欲の向上	(重点目標) 1 読み・書き・計算力の向上 (小) 各教科の基礎的基本な学習内容の定着(中) 2 読書活動の推進 3 ICTの活用による学びの拡充	【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none">「学びの確認の時間」や授業の中で習熟を図る時間を確保し基礎的基本な学習内容の定着を図る。キュビナや問題集・学習プリントを活用し、一人ひとりの学習進度や習熟度に応じた指導を行うことで読み・書き・計算力の向上や各教科の基礎的基本な学習内容の定着を図る。	○ 到達目標を達成することができた学年や教科が少なかったが、「授業に意欲的に取り組んでいる」と答えている児童生徒数は多く、保護者や教員の評価もおむね良好であった。「学びの確認の時間」や授業の中で習熟を図る時間を設定し、キュビナや問題集・学習プリントを活用して指導し、少しづつ成果を出している児童生徒が増えているが、テストの結果に表れていない。読む力、書く力の向上が必要である。 ☆さらに児童生徒の学習意欲を高める授業づくりを図るために、協働的な学びや個別最適な学びを取り入れたり、読む力や書く力を鍛えたりしながら、学力向上を図っていく必要がある。また、家庭学習の習慣を定着させるため、課題の出し方や保護者への啓発の仕方を検討する必要がある。	2 3	○ 読み書き能力の向上と家庭学習の習慣づけが必要である。保護者と連携して家庭学習を定着させることが重要である。家庭での学習習慣はある程度定着していると感じていても、自主的な学習や苦手分野の克服が課題である。 ○ 国語力の向上が他の教科の成績向上に繋がるので、読書の習慣が重要である。経済的理由で新聞を取れない家庭もあり、学校に自由に新聞を読める場所をつくり、児童生徒が読むことで興味の幅を広げることが期待される。 ○ 外部評価としては授業態度や意欲から「3」を与えたい。
	(到達目標) 1 全国・県及び西都市の学力検査でそれぞれ平均点以上を目指す。 2 「読書が好きである」を肯定的に答える児童生徒の数を増やす。 3 ICTを活用し、主体的に学んだり、対話的に学んだりすることに肯定的な児童生徒の数を増やす。	○ 「読書通帳」を活用し、読書意欲を高める。(小) ○ 「家読の日」を設定し、読書をする環境づくりに努める。(小) ○ 読書ボランティアによる「読み聞かせ」を月に1回実施する。(小) ○ 登校後に読書の時間を設定し、学級文庫を充実させ、静かな雰囲気の中で読書に親しませる。(中)	○ 児童生徒、保護者、教員の自己評価は低かったが、「意図的な図書室利用」「読書貯金通帳の活用」「家読の日設定」「ボランティアによる読み聞かせ」「登校後の読書時間の設定」「学級文庫の充実」等が、児童生徒の読書意欲の向上につながり、読書について肯定的に答える人数が昨年度より増えた。また、学校の取組に対する保護者の評価が高かった。学年が上がるにつれ、児童生徒や保護者の評価が低くなっていることから、メディアへの依存や習い事・部活動での時間的余裕のなさ、家庭での読書習慣がないこと等が考察される。 ☆「読書が好きである」と肯定的に答える児童生徒の数が少ない現状があるので、今年度の具体的な取組を継続しながら、学校において更に読書の時間を増やしたり、小中の交流を通じた読み聞かせをしたりしていきたい。また、保護者と連携して、家庭でも読書の雰囲気づくりに努める必要がある。	3 3	○ 読書や読み聞かせについては、児童と保護者とのコミュニケーションも大切で、児童生徒が読んだ本の話を家庭で共有することが促された。また、読み聞かせのボランティアを増やしたり、ボランティア同士の交流や研修をしたりすることも大切である。 ○ 読書に対する肯定的な割合が昨年より増えているが、家庭での読書習慣をどう定着させるかが課題となっている。今後、保護者の協力を得ながら、この課題に取り組んでほしい。
	(重点目標) 1 コミュニケーション能力の向上 2 縦割り・協働活動の推進 3 プラス1チャレンジ (到達目標) 1 アンケートの「思いやりと向上心」に関する質問に肯定的に回答する児童生徒の数を年度当初と比較して増やす。(思いやり、協調性、目標に向かって努力する姿勢)	【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none">日常生活の中で、あいさつや返事の指導を行い、相手の目を見て、元気よくあいさつできる児童生徒の育成を図る。	○ あいさつの指導については一定の効果が出ていると思われるが、小学部教員の評価が低かったことから、「目指しているあいさつ」と「実際のあいさつ」との差があると思われる。 ☆ 今後も教師の率先垂範で「自分から先に、元気よく」あいさつができるように常時指導していく。	3 3	○ 学校内と外での状況の差が気になる。知らない人に対する警戒心が挨拶の減少に繋がっていると考えられる。挨拶の意義を子ども達に理解させることが重要であり、保護者や学校関係者の協力が必要である。
思いやりと向上心の育成	(重点目標) 1 コミュニケーション能力の向上 2 縦割り・協働活動の推進 3 プラス1チャレンジ (到達目標) 1 アンケートの「思いやりと向上心」に関する質問に肯定的に回答する児童生徒の数を年度当初と比較して増やす。(思いやり、協調性、目標に向かって努力する姿勢)	【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none">学級活動等をとおして、ソーシャルスキルトレーニングを行い、ソーシャルスキルを高める。清掃当番を縦割りにすることで、協働活動を推進する。児童会活動や生徒会、学校行事等において縦割り活動や協働活動を行い、異学年での望ましい人間関係を醸成する。	○ 「思いやりや優しさを大切にして過ごしている」と答えている児童生徒が多く、児童会活動・生徒会活動や清掃をとおしての協働活動がよりよい人間関係づくりにつながっていると考えられる。 ☆ 小中学校のよさを生かして、小学部と中学部の協働活動を増やしていきたい。人権に関する授業を意図的に実践するが、異学年でのグループによる協働的な学び等、授業や人権週間ににおける活動の工夫を図っていきたい。また、ソーシャルスキルを身に付けさせるために、教師が活用できる資料を整備する等の策を講じる必要がある。	3 4	○ 授業の様子や三納フェスタ等の活動を通じて、児童生徒が思いやりをもって学校生活を送っている姿が見られた。小中一貫校として、子ども達が互いに知り合っているため、思いやりや優しさが十分にあると評価できる。
たくましい心と体の育成	(重点目標) 1 自力登校の推奨 2 眠眠教育の推進 3 運動に親しむ心と体の育成 (到達目標) 1 荒天時や体調不良等、特別な場合を除き、徒歩や自転車で登校する児童・生徒の数を増やす。 2 体力テストで昨年度以上の結果を出す児童・生徒の数を増やす。	【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none">全校集会や朝の会・帰りの会をとおして、自力登校の意義や睡眠運動の大切さを児童生徒に啓発するとともに、学級通信等や保健だよりをとおして保護者の意識付けができたのではないだろうか。	○ 自力登校については、(小学生70%中学生82%)で自己評価と保護者の評価では差がなく、概ね良好であるが、教師による評価ではそれより低いものとなっており、差異が見られた。生徒総会や朝の会・帰りの会をとおして、自力登校の意義や睡眠運動の大切さを児童生徒に啓発するとともに、学級通信等や保健だよりをとおして保護者の意識付けができたのではないだろうか。 ☆ まずは「歩いて登校」「学校手前500mは歩く」など提案していきたい。	3 3	○ 自力登校は体力向上や人間関係の調整に有効であると考えられるが、地域によっては困難な場合があり、保護者の判断も考慮する必要がある。地域による差や児童生徒の少なさ、安全面の懸念から、一概に自力登校を推進するのは難しい。自力登校の重要性を認識しつつも、来年度の学校運営評価の支点として再度検討したい。
家庭・地域との連携・協働	(重点目標) 1 学校運営協議会との連携推進 2 地域学校協働活動推進委員との連携推進 3 三納地域づくり協議会との連携推進 4 保護者との連携推進 (到達目標) 1 読み聞かせの時間が楽しいと肯定的に答える児童の数を増やす。 2 「さいと学」の時間が楽しく、充実していると答える児童生徒の数を増やす。(三納のことが好き、三納に貢献したい、三納のよいところが言える。)	【具体的な取組】 <ul style="list-style-type: none">各学部・各学年で体験学習や地域貢献活動を実施する。三納地域づくり協議会や保護者と連携を図り、「三納フェスタ」を児童生徒と地域の方々と交流の場とする。学校行事やPTA行事、PTA各専門部の活動をとおして児童生徒の成長に資する活動を推進する。	○ ボランティアの方々の協力を得て、読み聞かせを実施することができ、児童からも大変好評であった。 ○ 本年度は、「三納川の水質調査」「平郡十五夜踊り」「三納を盛り上げる人」など新たな地域素材を活用した学習を行うことができた。また、今後につなげるために、『三納地域と学校の連携・協働 年間計画案』を作成した。地域学校協働活動推進員と連携を図ったことで、職場体験学習の受け入れ先が広がり、生徒の学びが深まった。 ○ 三納地域づくり協議会や保護者と連携を図り、「三納フェスタ」を児童生徒と地域の方々と交流の場となつた。 ☆ 『三納地域と学校の連携・協働 年間計画案』『総合的な学習の時間 年間指導計画』に、随時書き込みしながら、ネットワークの整備を充実させていく。 ☆ 学校の教育活動について、学校だよりやホームページなどで積極的に発信していく。 ☆ 「三納のよいところが言える」と「三納のことが好きである」と答える児童生徒の割合が多いが、「将来にわたり三納に貢献したい」と肯定的に答えた児童生徒の割合が小学部6年生と中学部全学年に少ないことについては、その原因を探る必要がある。	4 4	○ 学年が上がるにつれて「三納に貢献したい」という質問に肯定的に答える児童生徒の割合が低くなる理由の1つとして考えられるのは、子ども達の将来の夢や希望が都会や他の地域に向いているためであり、子ども達が自立し成長する過程で自然なことと思われる。学校運営協議会のテーマ「ふるさとを愛する児童生徒の育成」は、正にこの実態に基づいて設定されており、ふるさとを愛する児童生徒の育成のために、地域・家庭・学校との連携や読書活動等の推進が大切だと考える。 ○ 三納フェスタでは、保護者や地域住民が積極的に参加し、総合的な学習の時間(さいと学)や生活科等、ふるさとへの愛着を育む活動が推進された。今後も地域・家庭・学校の連携・協働ができるよう尽力していきたい。 ○ 読み聞かせ活動は、他の学校や地域・保護者と連携しながら行っていきたい。

